



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月9日

上場会社名 セントラル硝子株式会社 上場取引所 東・大
 コード番号 4044 URL <http://www.cgco.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 皿澤 修一
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部長 (氏名) 大串 誠 (TEL) 03(3259)7062
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト・機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (％表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|--------|-------|-------|------|-------|-------|--------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 23年3月期第1四半期 | 39,569 | 8.5 | 1,856 | 1.4 | 1,686 | △13.0 | 616 | △33.1 |
| 22年3月期第1四半期 | 36,465 | △24.8 | 1,831 | △1.3 | 1,937 | △21.0 | 921 | 70.8 |

| | 1株当たり 四半期純利益 | | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 | |
|-------------|-----------------|----|----------------------------|----|
| | 円 | 銭 | 円 | 銭 |
| 23年3月期第1四半期 | 2 | 91 | — | — |
| 22年3月期第1四半期 | 4 | 34 | 3 | 89 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | | 純資産 | | 自己資本比率 | | 1株当たり純資産 | |
|-------------|---------|---------|---------|---------|--------|-----|----------|--|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | % | 円 | 銭 | |
| 23年3月期第1四半期 | 207,509 | 110,045 | 110,045 | 110,045 | 52.7 | 516 | 09 | |
| 22年3月期 | 215,507 | 112,179 | 112,179 | 112,179 | 51.9 | 526 | 99 | |

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 109,431百万円 22年3月期 111,748百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | | |
|------------|--------|--------|--------|----|----|----|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 | |
| | 円 | 銭 | 円 | 銭 | 円 | 銭 |
| 22年3月期 | — | — | 3 | 00 | 3 | 00 |
| 23年3月期 | — | — | — | — | — | — |
| 23年3月期(予想) | — | — | 3 | 00 | 3 | 00 |

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(％表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 | |
|-----------|---------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|----|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 | 銭 |
| 第2四半期（累計） | 77,000 | 6.4 | 3,200 | 142.8 | 2,900 | 555.8 | 1,500 | — | 7 | 07 |
| 通期 | 160,000 | 3.5 | 6,300 | 86.3 | 6,000 | 145.1 | 3,900 | 735.4 | 18 | 39 |

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：有

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

新規 — 社（社名） 除外 — 社（社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

| | | | |
|----------|--------------|----------|--------------|
| 23年3月期1Q | 214,879,975株 | 22年3月期 | 214,879,975株 |
| 23年3月期1Q | 2,838,492株 | 22年3月期 | 2,830,574株 |
| 23年3月期1Q | 212,046,318株 | 22年3月期1Q | 212,147,144株 |

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 2 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 3 |
| 2. その他の情報 | 3 |
| (1) 重要な子会社の異動の概要 | 3 |
| (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 | 3 |
| (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 | 4 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書 | 7 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 8 |
| (4) 継続企業の前提に関する注記 | 9 |
| (5) セグメント情報 | 9 |
| (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 10 |

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、アジア向け輸出の増加や生産、個人消費の持ち直しなど、緩やかな回復局面にはありますものの、雇用情勢にはなお厳しさが残るなど、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

このような経済状況のもとで、当社グループは積極的な販売活動を展開いたしました結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は39,569百万円と前年同期比8.5%の増加となりました。

損益面につきましては、経営全般にわたる業務の効率化・合理化施策を推進してまいりました結果、営業利益は1,856百万円（前年同期比24百万円増）となりました。経常利益は、為替差損や製造休止損失など営業外収支の悪化により前年同期比251百万円減の1,686百万円となり、当第1四半期純利益は前年同期比304百万円減の616百万円となりました。

セグメント別の概況

(ガラス事業)

建築用ガラスにつきましては、国内の建築需要が、戸建住宅など一部には持ち直しの兆しも見られますものの、依然として低水準で推移しましたため、売上高は前年同期を下回りました。

自動車用ガラスにつきましては、国内の景気刺激策や北米市場の回復などにより、売上高は前年同期を上回りました。

電子材料用ガラスにつきましては、液晶関連製品の出荷が好調に推移したことから、売上高は前年同期を上回りました。

以上ガラス事業の売上高は19,334百万円（前年同期比9.4%増）となり、553百万円の営業損失（前年同期比881百万円の改善）となりました。

(化成事業)

化学品につきましては、出荷が堅調に推移しましたため、売上高は前年同期を上回りました。

ファインケミカルにつきましては、医薬関連製品の売上は前年同期をやや下回りましたが、半導体、液晶関連産業向け特殊ガス製品や半導体リソグラフィ関連製品等の需要回復により出荷が好調に推移し、全体の売上高は前年同期を上回りました。

肥料につきましては、出荷が堅調に推移しましたが、肥料価格改定による値下がりの影響により、売上高は前年同期を下回りました。

ガラス繊維につきましては、自動車分野及び電子・電気部品関連製品の出荷が好調に推移しましたため、売上高は前年同期を上回りました。

以上化成事業の売上高は20,235百万円（前年同期比7.7%増）となり、営業利益は価格改定の影響による肥料子会社の採算悪化や重油価格の上昇などにより、前年同期比861百万円減の2,420百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は207,509百万円となり、平成22年3月末に比較しまして7,998百万円減少しました。資産増減の主なもの、流動資産は、受取手形及び売掛金の減少などにより3,240百万円減少し、固定資産は投資有価証券の時価の下落などにより4,757百万円減少しました。負債は合計で5,864百万円減少しました。

純資産は110,045百万円となり、自己資本比率は、0.8%増加し52.7%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物の残高は、平成22年3月末に比較し628百万円減少の18,491百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費などにより6,910百万円（前年同期比2,226百万円の増加）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出などにより1,951百万円（前年同期比454百万円の減少）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、短期借入金の返済などにより5,989百万円（前年同期比6,280百万円の増加）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、半導体需要の回復に加え、住宅エコポイント制度の効果による建築需要の持ち直しなどが期待されます一方、雇用情勢には依然として厳しさが残り、米国、欧州など海外景気の下振れ懸念もあり、景気の先行きは依然として予断を許さない状況が続くものと思われま

す。当社グループといたしましては、生産販売体制の強化と原価低減の推進など経営全般にわたる効率化を進め、基幹事業における構造改革を推進するとともに、研究開発及び技術開発を強化し、成長分野への経営資源の重点的な投入を行い、グループ企業力の強化に努めてまいります。

第2四半期連結累計期間の業績予想につきましては、第1四半期連結会計期間までの業績進捗状況を踏まえ、平成22年5月14日に公表いたしました第2四半期連結累計期間の業績予想を修正し、以下のとおり見込んでおります。

| | |
|------|-------|
| 売上高 | 770億円 |
| 営業利益 | 32億円 |
| 経常利益 | 29億円 |
| 当期利益 | 15億円 |

なお、第2四半期連結累計期間の業績の見通しにおける第2四半期の前提条件につきましては、為替レートを87円/USドル、原油価格をCIF 76ドル/バレルとしております。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 簡便な会計処理

① たな卸資産の評価方法

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算定に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として、合理的な方法により算定しております。

② 固定資産の減価償却の算定方法

一部の連結子会社は、定率法を採用している資産について、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分する方法により算定しております。

③ 一般債権の貸倒見積高の算定方法

一般債権の貸倒見積高の算定に関しては、当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。

④ 法人税等及び繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

一部の連結子会社は、法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっており、前連結会計年度末以降に経営環境等、又は、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められた場合には、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

⑤ 工事原価総額の見積方法

工事原価総額の見積りに当たって、当第1四半期連結会計期間末における工事原価総額が、前連結会計年度末に見積った工事原価総額から著しく変動しているものと認められる工事契約を除き、前連結会計年度末に見積った工事原価総額を、当第1四半期連結会計期間末における工事原価総額の見積額としております。

2. 四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理

税金費用の計算

当社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

1. 会計処理基準に関する事項の変更

①資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

②「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

当第1四半期連結会計期間より、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分）及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第24号 平成20年3月10日）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。これにより、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

2. 表示方法の変更

（四半期連結損益計算書関係）

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日) |
|---------------|-------------------------------|------------------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 18,652 | 19,278 |
| 受取手形及び売掛金 | 38,743 | 40,591 |
| 商品及び製品 | 20,148 | 21,048 |
| 仕掛品 | 1,194 | 1,116 |
| 原材料及び貯蔵品 | 8,235 | 8,288 |
| その他 | 3,555 | 3,414 |
| 貸倒引当金 | △313 | △280 |
| 流動資産合計 | 90,216 | 93,456 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 24,966 | 25,371 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 29,361 | 30,883 |
| 土地 | 23,819 | 23,826 |
| 建設仮勘定 | 1,662 | 1,044 |
| その他（純額） | 2,466 | 2,656 |
| 有形固定資産合計 | 82,277 | 83,782 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 678 | 773 |
| その他 | 2,078 | 2,174 |
| 無形固定資産合計 | 2,756 | 2,948 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 26,329 | 30,784 |
| その他 | 6,379 | 4,991 |
| 貸倒引当金 | △449 | △455 |
| 投資その他の資産合計 | 32,259 | 35,320 |
| 固定資産合計 | 117,293 | 122,050 |
| 資産合計 | 207,509 | 215,507 |

(単位：百万円)

| | 当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日) |
|--------------|-------------------------------|------------------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 15,089 | 15,290 |
| 短期借入金 | 29,314 | 33,999 |
| 未払法人税等 | 707 | 1,397 |
| 賞与引当金 | 364 | 1,337 |
| 工事損失引当金 | 9 | 6 |
| その他 | 16,927 | 15,626 |
| 流動負債合計 | 62,412 | 67,657 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 400 | 400 |
| 長期借入金 | 16,528 | 17,162 |
| 退職給付引当金 | 8,986 | 9,126 |
| 役員退職慰労引当金 | 86 | 106 |
| 特別修繕引当金 | 8,291 | 8,097 |
| 環境対策引当金 | 202 | 180 |
| その他 | 555 | 596 |
| 固定負債合計 | 35,051 | 35,669 |
| 負債合計 | 97,463 | 103,327 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 18,168 | 18,168 |
| 資本剰余金 | 8,117 | 8,117 |
| 利益剰余金 | 83,573 | 83,597 |
| 自己株式 | △1,732 | △1,729 |
| 株主資本合計 | 108,126 | 108,153 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 4,812 | 7,038 |
| 繰延ヘッジ損益 | △75 | — |
| 為替換算調整勘定 | △3,431 | △3,443 |
| 評価・換算差額等合計 | 1,305 | 3,594 |
| 少数株主持分 | 614 | 431 |
| 純資産合計 | 110,045 | 112,179 |
| 負債純資産合計 | 207,509 | 215,507 |

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) |
|-------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 売上高 | 36,465 | 39,569 |
| 売上原価 | 26,230 | 29,227 |
| 売上総利益 | 10,234 | 10,342 |
| 販売費及び一般管理費 | 8,402 | 8,485 |
| 営業利益 | 1,831 | 1,856 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 3 | 2 |
| 受取配当金 | 197 | 209 |
| 貯蔵品売却益 | 209 | 273 |
| 助成金収入 | 223 | — |
| その他 | 231 | 310 |
| 営業外収益合計 | 866 | 795 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 160 | 151 |
| 製造休止損失 | — | 292 |
| 為替差損 | 106 | 268 |
| 持分法による投資損失 | 194 | 48 |
| その他 | 299 | 205 |
| 営業外費用合計 | 760 | 965 |
| 経常利益 | 1,937 | 1,686 |
| 特別利益 | | |
| 工事契約会計基準の適用に伴う影響額 | 54 | — |
| 固定資産売却益 | 44 | — |
| 貸倒引当金戻入額 | 19 | — |
| 投資有価証券売却益 | — | 8 |
| 特別利益合計 | 118 | 8 |
| 特別損失 | | |
| 投資有価証券評価損 | 283 | 514 |
| 特別損失合計 | 283 | 514 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,772 | 1,180 |
| 法人税等 | 849 | 549 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | — | 631 |
| 少数株主利益 | 1 | 14 |
| 四半期純利益 | 921 | 616 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日) |
|--------------------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 1,772 | 1,180 |
| 減価償却費 | 3,163 | 3,095 |
| のれん償却額 | 62 | 62 |
| 引当金の増減額(△は減少) | △1,053 | △888 |
| 受取利息及び受取配当金 | △200 | △211 |
| 支払利息 | 160 | 151 |
| 持分法による投資損益(△は益) | 194 | 48 |
| 投資有価証券評価損益(△は益) | 283 | 514 |
| 投資有価証券売却損益(△は益) | — | △8 |
| 固定資産売却損益(△は益) | △43 | △5 |
| 固定資産廃棄損 | 70 | 69 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 3,439 | 1,876 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | 1,553 | 881 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △5,404 | △219 |
| 未払消費税等の増減額(△は減少) | 162 | △3 |
| 未払費用の増減額(△は減少) | 1,561 | 2,107 |
| その他 | △171 | △612 |
| 小計 | 5,548 | 8,039 |
| 利息及び配当金の受取額 | 200 | 211 |
| 利息の支払額 | △171 | △166 |
| 法人税等の支払額 | △893 | △1,173 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 4,684 | 6,910 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △0 | △0 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △2,337 | △1,924 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 73 | 24 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △1 | △1 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 0 | 67 |
| その他 | △141 | △117 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △2,405 | △1,951 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | 1,351 | △4,625 |
| 長期借入金の返済による支出 | △209 | △705 |
| 自己株式の取得による支出 | △2 | △3 |
| 配当金の支払額 | △848 | △636 |
| 少数株主への配当金の支払額 | — | △18 |
| その他 | △0 | △1 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 291 | △5,989 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 69 | 6 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 2,639 | △1,022 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 13,449 | 19,120 |
| 連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 123 | 393 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 16,212 | 18,491 |

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【前第1四半期セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

| | ガラス事業 (百万円) | 化成品事業 (百万円) | 計 (百万円) | 消去又は全社 (百万円) | 連結 (百万円) |
|-----------------------|----------------|----------------|------------|-----------------|-------------|
| 売上高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 17,670 | 18,794 | 36,465 | — | 36,465 |
| (2) セグメント間の内部売上高又は振替高 | 706 | 439 | 1,145 | (1,145) | — |
| 計 | 18,376 | 19,234 | 37,611 | (1,145) | 36,465 |
| 営業利益又は営業損失(△) | △1,435 | 3,282 | 1,846 | (15) | 1,831 |

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分の方法は、製造方法及び販売市場の類似性により「ガラス事業」と「化成品事業」とに区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

ガラス事業…建築用ガラス、自動車用ガラス、電子材料用ガラス等

化成品事業…化学品、ファインケミカル、肥料、ガラス繊維等

3. 会計処理の方法の変更

(完成工事高及び完成工事原価の計上基準)

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」2. に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を適用しております。

これにより従来の方法によった場合と比較して、ガラス事業で売上高は182百万円、営業損失は10百万円増加しております。

【当第1四半期セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、本社に製品別・サービス別の事業部門を置き、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。従って、当社グループはそれぞれの事業部門を基礎とした「ガラス事業」と「化成事業」の2つを報告セグメントとしております。

「ガラス事業」は主に、建築用ガラス、自動車用ガラス、電子材料用ガラスを製造販売しております。

「化成事業」は主に、化学品、ファインケミカル、肥料、ガラス繊維を製造販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

（単位：百万円）

| | 報告セグメント | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-------------------------|---------|--------|--------|--------------|-----------------------|
| | ガラス事業 | 化成事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 19,334 | 20,235 | 39,569 | — | 39,569 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 528 | 328 | 856 | (856) | — |
| 計 | 19,862 | 20,563 | 40,426 | (856) | 39,569 |
| セグメント利益又は損失(△) (注) 2 | △553 | 2,420 | 1,867 | (10) | 1,856 |

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、各セグメントの営業利益又は営業損失を表示しております。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。